



日本一チャレンジする町

カラフルタウン

横瀬町

外国人×若者×町民

=

ウェルビーイングな町へ！

～外国人・若者と町民との交流と心の豊かさを求めて～

2024年8月21日

横瀬町 まち経営課

福井

横瀬町の紹介

横瀬町の概要



© 秩父地域おもてなし観光公社

場所	埼玉県西部、秩父盆地の東端に位置 東京から70km圏内
面積	49.49km ² うち40.35km ² は森林
人口	7,664人 (3,340世帯) (参考：役場職員95人)
産業	・ 武甲山から産出される石灰を扱う窯業 ・ 農林業 (特に観光農園業) など

※2024/7/1 時点

横瀬町の特徴

魅力的な自然豊かな里山風景と
歴史ある食・伝統・文化が息づく町



横瀬町の現状(これまで)

住民がワクワクする町づくりを目指して



2016年から
約234件の提案に対し
140件を超える
プロジェクトを採択！！



- ①「よこらぼ」による事業誘致の推進
- ②地域商社(株)ENgaWAによる地域における経済循環を根幹に据え六次産業化にチャレンジする取り組みを実施
- ③地域おこし協力隊、地域活性化起業人の受け入れと町づくりの取り組み実施
- ④JICAとの連携による日本の実習生、海外からの研修員等の受け入れ



関係人口が増加し、町づくりに関わる住民も増えてきた

外国からも注目される町に…

横瀬町の人口減少・流出を抑制するための町づくりは、米国への人口流出が多い開発途上国(グアテマラ、ホンジュラス等)にとって参考になる取り組みであり、町への視察が増加している

今後の展望

- 関係人口の増やし方を核とした横瀬モデルを創造し、同様の問題を抱える国内外にも『輸出』する
- 外国も注目する横瀬のまちづくりを『町民が誇れる』ことで、ウェルビーイングな町を目指す



2024年6月3日
ホンジュラス国立自治大学
関係者の役場表敬訪問

横瀬町の目指す姿(これから)

関係人口と町民の関わりを広げていきたい

これまでは・・・

様々な取り組みによって関係人口が増加し、中心地では徐々に住民と関係人口の関わりが生まれてきた



これからは・・・

町全域にある遊休資産を活用し、これまでに関係人口と関わりが少なかった町民も気軽に外国人や若者と交流できる場・機会を創造したい！



横瀬町の目指す姿

駅周辺・中心地等、町内の様々な場所で、外国人・若者と町民がワクワク感を持ちながら交流できる場・機会を増やし、町民が町の取り組みを誇りに思い、精神的な満足感が得られるウェルビーイングな町を目指したい！



目指すための第一歩

ウェルビーイングな町を目指すための第一歩

交流する場の創造

～町の遊休資産等の有効活用～

交流する機会の創造

～町外からの外国人・若者の誘客～

交流する場の目指す姿（理想）

- 年齢や国籍も関係なく「誰でも」交流できる場
- 「気軽に」「いつでも」「どこでも」利用できる交流の場
- 町の遊休資産を活用した「いままでにない」交流の場

交流する機会の目指す姿（理想）

- 外国人・若者が町民と横瀬町の魅力について語れる機会
- 外国人・若者が町民と町づくりに一緒に取り組める機会
- 外国人・若者が豊かな自然と町民の温かさに触れ、非日常が体験できる機会

横瀬町に来る若者のために

名前 | 国際 太郎 (22)

世帯 | 家族と別居

仕事 | 都内の大学に通学

生活 | 東京都の大学に通っていて、23区を出ることもなく都会の生活と喧騒に少し疲れている。

いまの
気持ち | 何処かに行って豊かな自然に触れたり、
新たな交流の場や、機会でもあれば刺激
になるのに…



横瀬町に来る外国人のために

名前 | Philip Marlowe (22)

世帯 | 両親と妹

仕事 | 大学生

生活 | 円安もあり日本を旅行した。イチローズモルトに興味があり、秩父を訪問しました。

いまの気持ち | 横瀬にも立ち寄ったが、自然が豊か、人々もオープン&フレンドリーで、もっと交流の機会や場所があれば…



横瀬町に住む人のために

名前 | 横瀬 優子 (15)

世帯 | 両親・兄弟と同居

仕事 | 横瀬中学校3年生

生活 | これから高校に進学予定であるが、もっと町外の人々と交流し、人間としての幅を広げられれば。

いまの
気持ち | 最近、インバウンドの外国人観光客を見かける。それらの人々との新たな交流の機会でもあれば異文化を知れるかも…



横瀬町の過去～現在の取り組み

取り組み(～現在まで)

【交流する場の創造に関する取り組み】

- 中心地を形成する交流施設等の整備
- 官民連携プラットフォーム「よこらぼ」を通じた事業誘致
- お試し移住体験が可能な舎場(やどりば)シンワの設置

【交流する機会の創造に関する取り組み】

- 地域おこし協力隊、地域活性化起業人等の外部人財との町づくりの取り組み
- 大学連携等による若者の呼び込み
- JICAの開発途上国からの研修員、海外派遣予定の実習生の受入れ

【上記以外の取り組み】

- 総合振興計画に住民の幸福度を測るウェルビーイング指標を導入
- 外国人向け暮らしの便利帳の多言語アプリ「わかる」の開発

現在のウェルビーイング指標①

■自分のしたいことをする、または欲しい物が買える経済的な余裕があると感じている人の割合

48%(2023年度)⇒55%(2028年3月)にする

3.達成すべき基本目標

項目	基準値	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度目標
自分のしたいことをする、または欲しい物が買える経済的なゆとりがあると感じている人の割合(%) 4-A	48	-	-	-	55

現在のウェルビーイング指標②

■町の未来に期待や楽しみ、ワクワクする気持ちがあると
感じている人の割合

33%(2023年度)⇒40%(2028年3月)にする

3.達成すべき基本目標

項目	基準値	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度目標
町の未来に期待や楽しみ、ワクワクする気持ちがあると 感じている人の割合(%) 5-A	33	-	-	-	40

横瀬町の課題

交流する場の創造に関する課題

■町の遊休資産を有効に活用できていない

■「よこらぼ」による事業誘致(7年間で141件を採択)が進むとともに、(株)ENgaWAの運営に関与する地域おこし協力隊等の関係人口が増加しつつあるが、交流する場がまだまだ少ない



■特に町の中心地以外の周辺地域において、交流する場が少ない

■交流する場の創出が直接的な利益に繋がっていない

交流する機会の創造に関する課題

- 外国人との交流がJICAのプログラム中心で、まだ外国人を呼び込めていない
- 横瀬町民が積極的に外国人と触れ合おうという雰囲気醸成されていない
- 「よこらぼ」「JICA」等の先進的な取り組みに対して、町民の満足度、認知度は十分ではない
- 働き口がなく企業の誘致も進んでいない



ご提案いただききたい事

ご提案いただきたいこと

ウェルビーイングの向上につながる 外国人・若者と町民が交流できる仕組み

交流する場の創造

- ・町の空き地や遊休資産等の有効活用
- ・メタバース空間などでどこからでも
交流できる場とか・・・

交流する機会の創造

- ・まちの魅力を互いに共有しあえる
交流イベント
- ・外国人・若者が横瀬町のリピーターに
なってくれる体験型のコンテンツ
- ・横瀬町での交流の様子を
対外的に発信する仕組みとか・・・

横瀬町が提供できるリソース

① 小さい自治体ならではのスピード感

小さい自治体だからこそその意思決定、実行の速さがあります。スモールスタートからの実証実験に最適です。自らチャレンジしチャレンジを応援するベースがあります。



② 官民連携事業によるノウハウ・横展開

7年目を迎える官民連携プラットフォーム「よこらぼ」で培った民間企業との連携ノウハウや、他の民間企業とのネットワークを活用し、BtoBの広がりの可能性や、事業の更なるパワーアップが狙えます。

③ 町の遊休資産

町の保有する遊休資産、空き家・空き地を利用することが可能です。



横瀬町が提供できるリソース

④ JICA(独立行政法人国際協力機構)との連携

横瀬町では海外協力隊(若者)の派遣前の実習、開発途上国の若手行政官、大学教授の行政視察等を受け入れています。

JICAとは？

日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。主に開発途上国の国づくり、人づくりとして以下を実施しています。

- ①技術協力
- ②有償・無償資金協力
- ③海外協力隊派遣
- ④研修員受け入れ

JICAと連携することで…

これから海外に派遣される若者、開発途上国の外国人行政官等と交流する機会を提供できます！



まとめ

まとめ

横瀬町の想い

外国人・若者等の関係人口を増やすことで人口減少を抑制し、さらに町の取り組みをアピールしてウェルビーイングを実感できる日本一誇れる町にしたい

横瀬町が困っていること

- ・ 町内の遊休資産、空き地、空き家の有効活用の目処が立っていない
- ・ 町民を町の取り組みに巻き込む仕掛けづくりが十分でない

企業側に求めること

- ・ 実現性の高い提案から、チャレンジングな取り組みまで幅広く提案を募集します
- ・ 町の課題解決のために「情熱」を持って一緒に取り組んでいける仲間を募集します

横瀬町と共創するメリット

- ・ 官民連携事業のノウハウの蓄積によるスムーズな連携
- ・ 他の民間企業とのネットワークの活用
- ・ JICAを介した開発途上国と提案企業とのネットワークの構築

参考資料

官民連携の取り組み



- 官民連携プラットフォーム -

採択実績 (2016/10～2023/10/24)

7年間で140件を超えるの採択実績

採択 **141**件

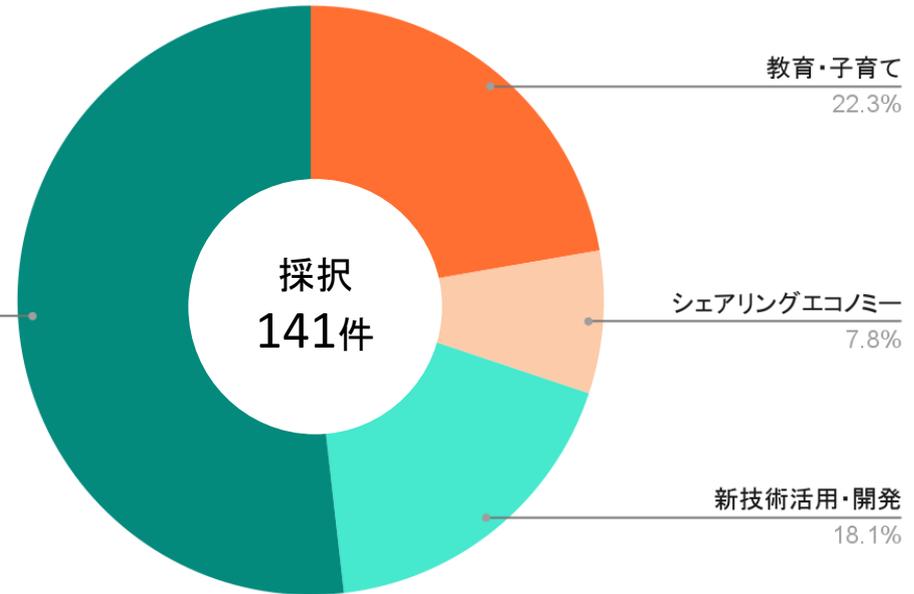
1.6件/月

提案 **234**件

2.7件/月

採択事業の分野

その他
51.8%



総務省「令和4年度ふるさとづくり大賞」優秀賞を受賞



Tips:ふるさとづくり大賞
総務省が実施する、全国各地でそれぞれの「ふるさと」をよりよくしようとする団体、個人を表彰する制度。
令和4年度においては、全都道府県から推薦のあった候補の中から25団体と4人が受賞。



評価されたポイント

- 日本一チャレンジする町、日本一チャレンジを応援する町というブランディングとビジョンを評価。地方=実証実験地とすることにより、地方が先進地化、地方性を価値化している。
- 小さな町だからこそできる地域住民を中心とした地域づくり。行政がスピード感をもってサポートし、民間が主体となることで継続的な取り組みとなる。
- 町の規模にしては、発展性が幅広く、創造力豊富な取り組みである。町のさまざまな面の活性化につながる。

今後、新たな事業が増えてくるのが **楽しみ** である

JICAとの連携について（詳細）

横瀬町はJICAと連携し大学生、開発途上国からの外国人等の関係人口を増やし、人づくり、賑わい・中心地づくり、人の輪づくりを強化しています。

《具体的な取り組み》

- ・ 出向者の受け入れ-現在、福井康専門員で3代目
- ・ JICAインターン-2月6日に9名の大学生インターンが視察
- ・ 海外協力隊グローバルプログラムの実施-5月6日～7月19日の間、3名の実習生を受け入れ
- ・ ホンジュラス国別研修員-6月3日 国立自治大学修士課程強化プロジェクトの大学教授が視察
- ・ 長期研修員インターン-7月5～7日に4名の日本の大学院で学ぶ外国人(モーリシャス、セーシェル、パプア・ニューギニア、キリバス)が視察予定で、グローバル実習生ともイベントを通じて協働
- ・ グアテマラ国別研修員-地方行政能力向上プロジェクトで地方自治体の行政官が、9月上～中旬に2泊3日で視察予定
- ・ 青年研修-開発途上国で中小企業振興に携わる12か国(17名)の若手行政官等の受け入れを地域商社の(株)ENgaWAが落札し、町としても全面的に支援